

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立赤坂台小学校
校長 稲田 美穂

中学校区におけるめざす子ども像

社会の中で人とつながり、よりよく生きる子

令和6年度 重点目標

人間尊重の精神に徹し、未来に生きるたくましい生活力と豊かな人間性を養う。

「確かな学び」の現状

・全国学力・学習状況調査において、「勉強は大切な」「学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う」という問いに対し、国語・算数共に91%以上の肯定的回答が見られた。学びに対する意欲的な姿勢から、子どもの自主性と自律的に学ぶ力を育み、基礎学力の定着を重点課題として教育活動を進める。学校図書館及び児童用パソコンを活用した探究的な活動に丁寧に取り組み、情報活用能力を育む。また、自主学習や、国・算の朝学習をはじめ、学びのコンパスを活用した「子どもが主体的に考える授業づくり」について取り組み、基礎・基本と学習習慣の定着を図る。特別支援コーディネーターを核とした校内支援を進め、誰一人として取り残すことのない教育を推進する。

「豊かな心・健やかな体」の現状

・前年度の学校教育自己診断では「学校に行くことが楽しい」の項目で9割以上の肯定的な回答が得られているが、肯定的な回答ができなかった児童が一定数いることを真摯に受け止め、子ども一人ひとりと向き合った指導を行う。「いじめアンケート」等も活用していじめの未然防止に努め、子どもの道徳性や自尊感情の醸成を図り、豊かな心を育む。さらに、教職員の人権感覚に磨きをかけ、人権教育の基盤を盤石にする。
・運動能力に関しては、堺市平均値に比べて課題のある項目がみられる。体を動かすことの心地よさや運動の楽しさを実感できる学習活動を継続的に実施し、解決を図る。6年生では、赤坂台学校群として連携して体育の授業に取り組む。また、全児童において運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を送ることができるよう家庭との連携を図る。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)					
								自己評価	学校関係者評価				
学力の向上	読書週間の定着 学校図書館の利用の充実 基礎・基本的な学習の定着	自由読書以外に、学校図書館を活用して行う調べ学習を各学年年間1回以上取り組む。	基礎・基本と学習習慣の定着 ●自主学習ノートの充実(学年・学校としての交流) ●朝学習(国・算)の充実。金曜日に算数の復習。	「読書は好きですか」82%以上 「図書館を利用した学習は好きですか」82%以上	児童アンケート	年度末	○ すべての学年で、学校図書館・公共図書館の団体貸出を活用し調べ学習を継続中。	○	・アンケート結果より、肯定的な意見が82%以上あり、図書館の利用充実に取り組めた。 ・自主学習では、82%以上が「積極的に取り組めた」と肯定的な回答であった。引き続き意欲的に取り組めるよう勤めていきたい。また、基礎・基本を定着させ、国語・算数の単元テストは全学年で70%以上を達成できた。	○	探究的な学びの実現に向け、図書を活用した学習の充実を今後も期待する。		
			学びのコンパスを活用した授業を実施する。また、自己解決の場面に重点をおいた校内授業研究会を行う。	「自主学習に積極的に取り組むことができた。」82%以上 国語・算数の単元テストで知識・技能の項目70%以上	児童アンケート	年度末	○ 掲示板を利用して各学年の自主学習を交流。週に2回、朝学習で国語と算数の学習を進めている。	○	・校内授業研(全6回)実施 全員公開授業(順調に進んでいる) 学びのコンパスは各担任・専科で取り組み中。	○	・校内授業研・学校群合わせて全6回実施済み。 ・全職員公開授業は2月末までに実施。 ・各学年・専科で、学びのコンパスを意識した授業に取り組んだ。2月12日報告会を実施。 ・児童用パソコンを活用して、学習課題や調べ学習などに取り組むことができた。また、82%以上の児童がアンケートに肯定的な回答であった。 ・特別支援研修を実施し、支援を要する場合は、アセスメントを行うよう共通理解を図った。必要に応じて校内支援委員会を実施し、支援方法や支援級入級に向けての検討を行った。	○	子どもが主体的に基礎・基本の定着を図る力を育むため、自主学習の取り組みは有効である。
			児童用パソコンを活用した授業を各学級で1日1時間以上実施する。	「パソコンを活用した授業は楽しい」82%以上	児童アンケート	年度末	○ ICT活用研修などを実施し、1日1回以上授業で児童用パソコンの活用に取り組んでいる。	○	・校内授業研・学校群合わせて全6回実施済み。 ・全職員公開授業は2月末までに実施。 ・各学年・専科で、学びのコンパスを意識した授業に取り組んだ。2月12日報告会を実施。 ・児童用パソコンを活用して、学習課題や調べ学習などに取り組むことができた。また、82%以上の児童がアンケートに肯定的な回答であった。 ・特別支援研修を実施し、支援を要する場合は、アセスメントを行うよう共通理解を図った。必要に応じて校内支援委員会を実施し、支援方法や支援級入級に向けての検討を行った。	○	校内授業研修・全職員公開授業をととした研鑽は今後も大切である。		
			特別支援の充実 校内支援委員会の機能の充実	特別支援研修の実施	実践報告	年度末	○ 全職員に対して特別支援研修を実施。また、校内支援委員会を実施し、共有を進めている。	○	・校内授業研・学校群合わせて全6回実施済み。 ・全職員公開授業は2月末までに実施。 ・各学年・専科で、学びのコンパスを意識した授業に取り組んだ。2月12日報告会を実施。 ・児童用パソコンを活用して、学習課題や調べ学習などに取り組むことができた。また、82%以上の児童がアンケートに肯定的な回答であった。 ・特別支援研修を実施し、支援を要する場合は、アセスメントを行うよう共通理解を図った。必要に応じて校内支援委員会を実施し、支援方法や支援級入級に向けての検討を行った。	○	「そろばん」の活用等、具体的に数をイメージしやすい学習活動が大切と考える。		
豊かな心の育成	「相手に対して思いやりをもった教職員集団 チーム赤坂台」を目標とし、豊かな人間性を育成できる学校づくりをめざす。	人権教育の充実	人権教育研修の実施(ジェンダー教育) 人権教育計画に基づき実施 ★赤坂台中学校区グランドデザイン めざす子ども像の育成	実践報告	年度末	○ 7/31 ジェンダー平等教育教職員研修を実施。全学年が人権教育年間計画に沿って実施中。	○	・ジェンダー平等に関する授業を全学年に行えるように計画し、実施した。 ・なかよし集会を通して、高学年が下級生に対して思いやりをもって接する場面が増えた。また学校群の取り組みによって、小小交流や中学の先生が小学校に来るなど、頻繁な交流が進み、協働的な学びができています。 ・学校生活アンケートによると「学校は楽しいですか」の項目で90%以上の児童が肯定的な回答をしていた。しかしながら、少数の児童は否定的な回答をしている。教室内外問わず居場所のある環境を作っていく。	○	赤坂台学校群で学校間の連携を進めることで、9年間の連続した学びが充実すると考える。			
		いじめ防止に向け、「仲間づくり」を大切にし、子ども一人ひとりと向き合う学年・学級経営を行う。	「学校に行くことが楽しい」 児童・保護者ともに90%以上	学校教育自己診断	年度末	○ 毎月、生徒指導委員会で各クラスの情報を共有。いじめについての認識を教職員内で統一し、学級運営を行っている。毎学期末に生活アンケートを実施し、全児童と個別面談を行うなど、いじめを見逃さないように取り組んでいる。	○	・ジェンダー平等への学習の一環として、家庭・地域への啓発活動を進め、協力できる環境を構築することも大切である。 ・少数とは言え、否定的な回答をしている児童へのサポートや居場所づくりを大切にしたい。	○	ジェンダー平等への学習の一環として、家庭・地域への啓発活動を進め、協力できる環境を構築することも大切である。			
		運動に親しむ機会の充実 運動する習慣・意欲・能力を高める環境整備 早寝・早起き・朝ごはんといった基本的な生活習慣の充実	体を動かすことの心地よさや運動の楽しさを実感し、さらに自己の記録等高みを目指す授業展開に取り組む。 基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みを通して、健康について考える力を育む。また、保護者に向けた啓発を行う。	実践報告	年度末	○ 体育委員会によるドッジボール大会の実施や授業での体育の工夫、学校群での小中連携授業など運動に親しめる工夫をしている。	○	・ドッジボール大会を通して、授業のみならず、休み時間なども楽しく運動に取り組むことができた。 ・生活習慣チェックの結果より、睡眠、朝食、歯みがきについて、12月は7月よりもよくなった。保健指導実施で生活習慣が向上した児童が増えた。	○	生活習慣や虫歯の治療・ICT活用による視力低下等、健康の保持については、学校、家庭、関係機関の一体的な取り組みの継続が大切である。			
安心・安全(信頼される学校)	学校情報の積極的な発信と地域・家庭から信頼される学校づくりを行う。	地域との交流	2・3年生の地域との心の交流実施	実践報告	年度末	○ 2学期に地域の方と手紙の交流を実施。	○	・地域の方と手紙の交流を実施し、地域とのつながりを深めることができた。	○	個人情報への配慮をしながら、引き続き、積極的な情報発信と地域交流に努めてほしい。			
		情報発信 緊急時の対応	学校HP充実、校報の充実 緊急時の対応周知や情報発信の充実	実践報告 学校教育自己診断	年度末	○ Tetoruで校報や下校時刻など発信、学校HPの更新等情報発信の充実に努めている。	○	・tetoruや学校HPを活用し、情報発信をすることができた。	○				

校長より(年度末)

・コロナ禍で、集団として果たす「協力して」「人の意見を聞いて考える」「さまざまな場面で」といった機能や経験を積み重ねることが約3年間抜け落ちていたことを埋めるべく、教育活動で工夫をしています。例えば、異年齢活動を通じ相手に思いやりをもった行動を行うこと、学習の中で自分の課題を見つけ、周囲との協力のもと学習を進めていくこと等、人との関わりを今後も増やしていきたいと考えています。
・学習の中でのICT活用は、必要な情報を自分で取捨選択する能力が必要となります。新しい知識をすぐに探し出せるのは利点ですが、情報をしっかり検証できる力を付けていきたいと考えます。
・今年度始まった「赤坂台学校群」の中で、同じ赤坂台中学校区で暮らす仲間意識をもって集団を築いていけるよう、地域と学校が連携して子どもを認め励ましていきたいと思っています。

学校関係者評価者から(年度末)

自分で課題を見つけ、周囲と協力し学習を進めていける児童の育成に向けて、学校群の取り組みが進み、教育活動が多様化してきている。ICTの活用は、児童の学習意欲向上につながっている。子どもたちが情報を検証できる力を身に付け、将来活躍できることを期待している。すべての児童の居場所づくりに学校・地域・家庭で協働を深めていきたい。